

日本海学森里海の未来フォーラム実行委員会報告書

事業目的

環日本海地域における循環や共生の思想に基づく社会作りには、日本海と森や里のあり方を見直し、その思想と命の尊厳を理解する人づくりが必要である。そのために、当委員会では、一般市民と森里海のつながりについて学習する地域再生フォーラムを実施する。また、農と福祉の分野から、環日本海地域における自然と人間の共生について考える活動をする。すべての人の幸せを願う福祉に、心身の健全化への効用と自然への学びの場を与える農という分野からの支援を研究する。また、異文化交流による共生への価値観の向上と産業発展への寄与を考える。結果として、日本海学やその理念の普及に努めることを目的とする。

日時	内容	受講者	場所
11月18日(木) 18:30～	第一回地域再生フォーラム 講師：松本雅子 「森里海のつながりについて」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計35名	とやまスローラ イフ・フィールド 交流館
11月24日(水) 18:30～	第二回地域再生フォーラム 講師：吉田剛 「これからの農(業)を考察する」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計32名	とやまスローラ イフ・フィールド 交流館
12月2日(水) 18:30～	第三回地域再生フォーラム 講師：室井康志 「食と農と環境を結ぶ農業教育」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計30名	とやまスローラ イフ・フィールド 交流館
1月22日(土) 10:00～	第四回地域再生フォーラム 講師：稲村修 「森里海と魚」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計2名	とやまスローラ イフ・フィールド 交流館
1月29日(土) 10:00～	第五回地域再生フォーラム 講師：高畑雅子 「園芸療法とは」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計36名	とやまスローラ イフ・フィールド 交流館
2月19日(土) 16:00～	異文化交流会(韓国) 講師：李東信 「韓国の食について」	一般市民 一次産業従事者・ 学生 合計21名	金山公民館
5月～2月	農と福祉の活動 森里海のつながりについての学習会 森里海の未来フォーラム実行委員会	委員会・一般市 民・学生・福祉施 設利用者と職員	

1 成果と課題

当委員会では、日本海学普及事業として、日本海学や森里海のつながりについて定期的に学習し、そこで学んだことを地域再生フォーラムの場で30名以上の一般市民を交えて討論しました。また、農業から福祉を支援する取り組み、韓国の方々と一般市民を交えて異文化交流を行いました。

今後の課題として、森里海のつながりという視点から、地域再生フォーラムを定期的に開催することで、学びを深めながら、日本海学の普及を目指します。

2 活動内容

2-1 地域再生フォーラム

『第一回 森里海の未来フォーラムについて』

講師：松本剛明 氏（日本海学森里海の未来フォーラム委員会代表）
松本雅子 氏（有機農業者）

- ・日本海学の説明と森里海の未来フォーラムの活動についての紹介。
- ・森里海のつながりについて。

北海道の事例：襟裳岬、漁業者による植樹運動、別海川の事例

森里海連環学

環境保全を視野に入れた一次産業のあり方。

森里海のつながりの視点から考える農業のあり方。

森里海のつながりと地域づくりについて。



『第二回 日本の農(業)を継承するための

これからの農(業)のスタイルを考察する』

講師：吉田 剛 氏

株式会社国際有機公社、有限会社さくさく村（農業生産法人）両代表取締役。

経営が成り立ち環境保全も視野に入れた農業のあり方を学習しました。

有機肥料を使用することが、そのまま環境保全型農業であり、安心できる農産物を生産できることではありません。過剰の有機肥料投入による地下水汚染や無計画な有機肥料投入により物理性・化学性・生物性のバランスを崩した土壌ができあがることなど、有機農業といえども、注意しなければいけないことがたくさんあります。環境保全型農業を進めていく上で、科学の力と先人たち知恵をバランスよく使いこなすことが、重要

であることを学習しました。

- ・ 土壌の三要素（良い土の条件）
物理的・化学的・生物的性質
- ・ 土壌診断による科学的データの活用。
- ・ 月の満ち欠けと植物や病害虫の関係について。
植物の生長リズム、肥料吸収パターン。
- ・ そこから考えられる栽培管理の在り方について。
- ・ 硝酸態窒素について
- ・ 農産物は健全に育つほどに、農薬の使用回数は減少する



『第三回 食と農と環境を結ぶ農業教育』

～未来の子供達に何を残すか。そのために私達は何をすべきか。～

講師：室井康志 氏 富山県立中央農業高等学校農業特別専攻科教諭

- (1) 人に良し、環境に良し、エコなコメ作り
 - ・ 米ぬかを活用した除草剤を使用しない無農薬水稲技術の確立
 - ・ ヘアリーベッチ（マメ科雑草）を活用した無農薬水稲技術の確立
 - ・ 有機栽培育苗法
 - ・ 無農薬米のフランス輸出
 - ・ ベトナムでエコ農業の研究開始
- (2) 廃食油の再利用
- (3) 牛糞の堆肥化
- (4) 棚田保全活動
- (5) 栄養価が高く、人にも優しい野菜（エンツァイ）の栽培と普及
- (6) 農業教育の要素と効果
- (7) 食の問題・大切さ
- (8) 日本人の国民総幸福度は 178 カ国中何位？
- (9) 未来の子供たちに何を残すか、そのために私たちは何をすべきか。



『第四回 森里海と魚』

講師：魚津水族館学芸員 稲村修氏

一般市民からの質問に答える形で、森里海と魚というテーマで学習しました。

- ・日本海学について
- ・田んぼに生息する水生生物
- ・サクラマスと河川環境の変化
- ・排砂ダム問題
- ・ヨコエビ
- ・日本海的环境変化
- ・里山の変化



『第五回 園芸療法とは？～植物が人に与える影響～』

講師：富山園芸療法普及会代表 高嶋雅子氏

- ・アメリカにおける園芸療法の誕生
第二次世界大戦後傷痍軍人の社会復帰を目的とした作業療法の需要が高まる。
園芸は退役軍人病院で大きな効果。1973年アメリカ園芸療法協会発足
- ・園芸療法の目的
高齢・障害などの理由により支援を必要とする人々に対して、農業や園芸作業を通して健康の増進や生活の質の向上を目的とする。
- ・園芸と園芸療法の違い
園芸は植物が主役。園芸療法は人が主役
- ・園芸福祉と園芸療法の違い
- ・植物や園芸作業が及ぼす効果
精神的・身体的・社会的・学習技能的・環境的效果
- ・高齢者・身体や発達障害者・精神疾患のある人を対象とした園芸療法の目標
- ・日本における園芸の活用と展開
- ・富山における園芸療法や園芸福祉の普及に向けて



2-2 異文化交流

『第6回「韓国の食について」』

一般市民と韓国の方々との交流を行った。

日本海学について学習し、その後、ビビンバップ、豆腐チゲ、キムチ、スジョンガ、チヂミ料理を作りながら、食についての由来や文化について、話し合いました

今後の展開として、キムチ作りなど、農業や食をテーマにした交流を進めていきます。



2-3 農と福祉

射水市にある富山型デイサービス施設 NPO 法人「ふらっと」や射水市の農家の畑などを
利用し、障害者や子供、ひきこもりの生徒などと様々な野菜を栽培しました。とやま園芸
療法普及会の方にも協力を頂きました。



障害者と農作業



ひきこもりの子供と農作業



収穫作業



障害者と農作業